

1. 実況上の着目点

① 500hPa 5220m以下で -36°C 以下の寒気を伴う寒冷渦対応の低気圧がオホーツク海を北東進。千島の東を前線を伴う低気圧が北東進。前線は日本の東から小笠原諸島付近を通り、沖縄の南へのびている。日本付近は西高東低の気圧配置で、北～東日本日本海側では1時間10mm前後の降水を解析、北海道地方では非常に強い風が吹き、しけている所がある。

② 黄海の高気圧が東南東へ移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①のオホーツク海の低気圧

は発達しながら30日にかけて、オホーツク海を北東進する。28日にかけて西高東低の気圧配置となるため、北日本を中心に非常に強い風が吹き、全国的に強い風の吹く所があり、波が高くなり、しける所がある。北海道地方では28日は暴風に警戒し、北～東日本では29日にかけて、強風、うねりを伴う高波に注意。北海道地方では、850hPa -6°C 以下の寒気が南下し大雪となる所や、北～東日本日本海側を中心に、しぐれが持続する所がある。北陸地方では28日は、土砂災害、低い土地の浸水に警戒し、河川の増水に注意・警戒。北海道地方では29日にかけて、大雪や積雪による交通障害に注意・警戒し、着雪に注意。また、上空の強い寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となる所がある。北日本では29日にかけて、東日本では28日は、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。

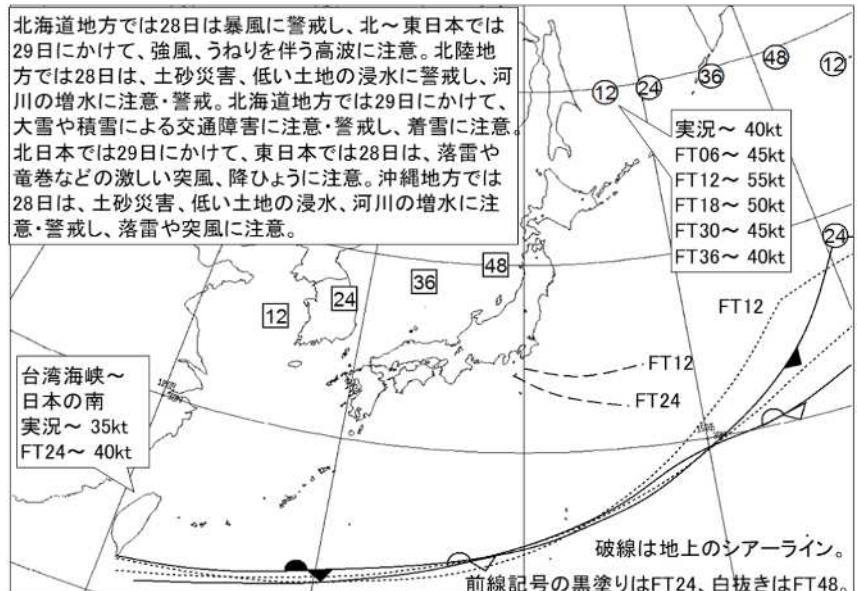
② 1項①の前線は28日は先島諸島付近から日本の南で停滞するが、30日にかけて次第に東へ進み、日本から遠ざかる。前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、雷を伴い激しい雨の降る所がある。沖縄地方では28日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風に注意。

③ 500hPa 5280m付近で -36°C 以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が前線を伴いアムール川下流付近を東北東進し、31日頃にかけてオホーツク海へ進み、前線は北海道地方付近を通過し、その後も気圧の谷が北日本に残る。一方、1項③の高気圧は、30日にかけて日本の東へ進む。北～西日本太平洋側を中心に、高気圧縁辺の吹送・吹続の長い東系の風や前線の影響で、強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。北～西日本太平洋側では30日は、うねりを伴う高波に注意し、北～東日本太平洋側では局地的に強風に注意。北海道地方では30日は、落雷や突風、降ひょうに留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北海道40、東北15cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北5、伊豆諸島・北陸・沖縄4、その他広い範囲で3m。④ 高潮(明日まで)：北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「雷と突風及び降ひょうに関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図